２０２２年度
在学生学修成果等
アンケート

実施レポート
（学部・大学院）

2022 年 9 月 26 日

担当：教務課

1. アンケート実施について

(1)アンケート実施時期

2022 年 7 月 18 日～8 月19日

(2)回答人数

合計 945 名　学部生:941 名　大学院:4 名
全学生 1,786 名中 945 名(52.9%)

(3)アンケート項目

■在学生学修成果等アンケート項目	■分類	■対応 DP
1. 主体的に学ぶ力	学修成果	DP①
2. 専門分野の知識	〃	DP②
3.外国語能力	〃	DP③
4.日本語・数学などの基礎能力	〃	DP②+DP⑥
5.コミュニケーション能力	〃	DP④
6.プレゼンテーション能力	〃	DP④
7.地域や社会に貢献する意識	〃	DP⑥
8.情報収集・活用力	〃	DP⑤
9.問題発見能力・課題解決能力	〃	DP⑤
10.幅広い教養	〃	DP⑥
11. 論理的思考	〃	DP⑤+DP⑥
12.予約・復習・課題などは主にどこで行っていますか	学修時間,行動	
13.授業外時間の学習時間	〃	
14.アルバイト・サークス活動時間	〃	
15.GPA 意識	〃	
16.学修相談相手	〃	
17.授業を休む理由	〃	
18.大学の学びによる成長について	大学について	
19.教員が学生と向き合って教育に取り組んでいるか	〃	
20.北海道情報大学を母校に薦めたいか	〃	
21.カリキュラム(教育内容)に満足しているか	〃	
22.大学に満足しているか	〃	

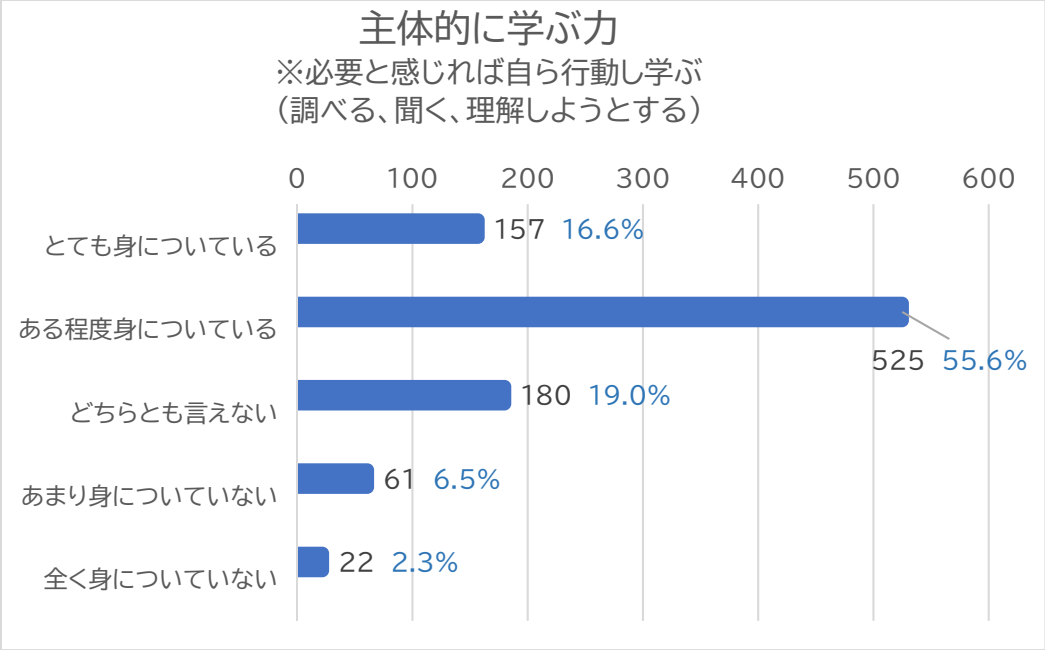
(4)アンケート周知方法

・Web ポータルに掲示(複数回にわたる周知)。
・メールでの周知:全 8 回。
(7 月 18 日、7 月 22 日、7 月 27 日、7 月 28 日、7 月 30 日、8 月 1 日、8 月 4 日、8 月 5 日に実施)
・デジタルサイネージを使用した掲示
・学生へ直接声掛け

2. アンケート回答結果

1. 主体的に学ぶ力

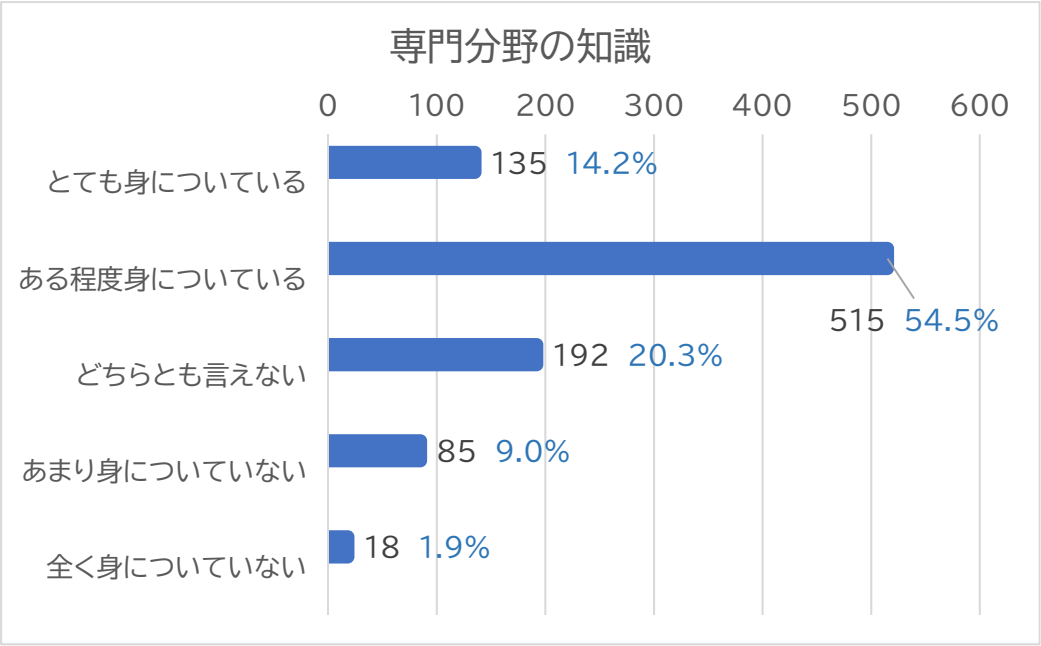
※必要と感じれば自ら行動し学ぶ（調べる、聞く、理解しようとする）



【コメント】

72.2%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力』は身に付いていると考える。

2. 専門分野の知識

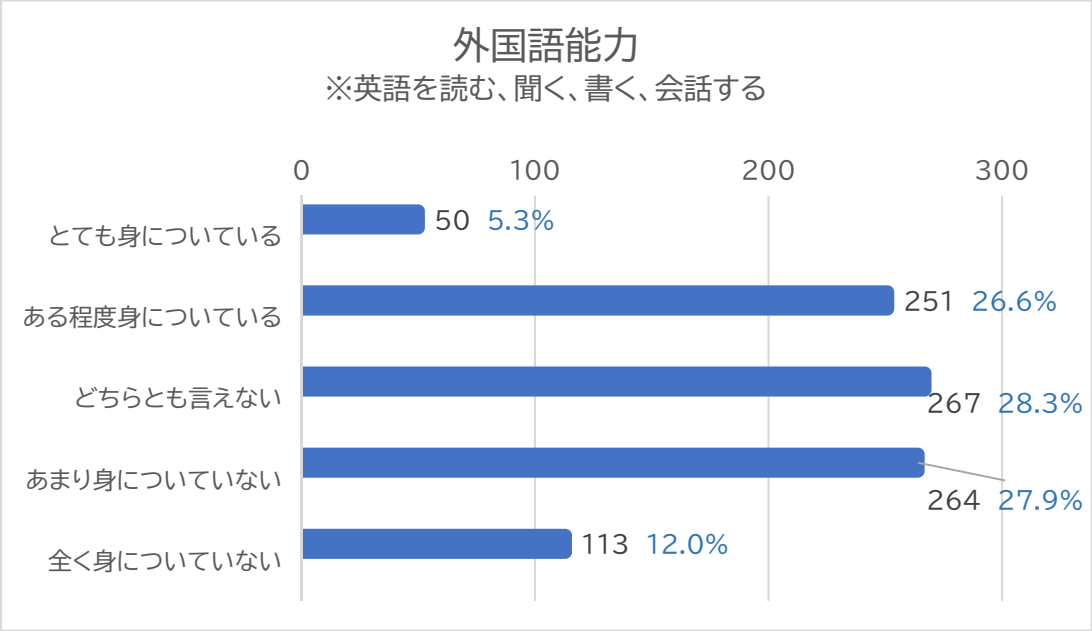


【コメント】

68.7%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『IT 社会に役立つ高度な情報技術と専門知識』が身に付いていると判断する。

3. 外国語能力

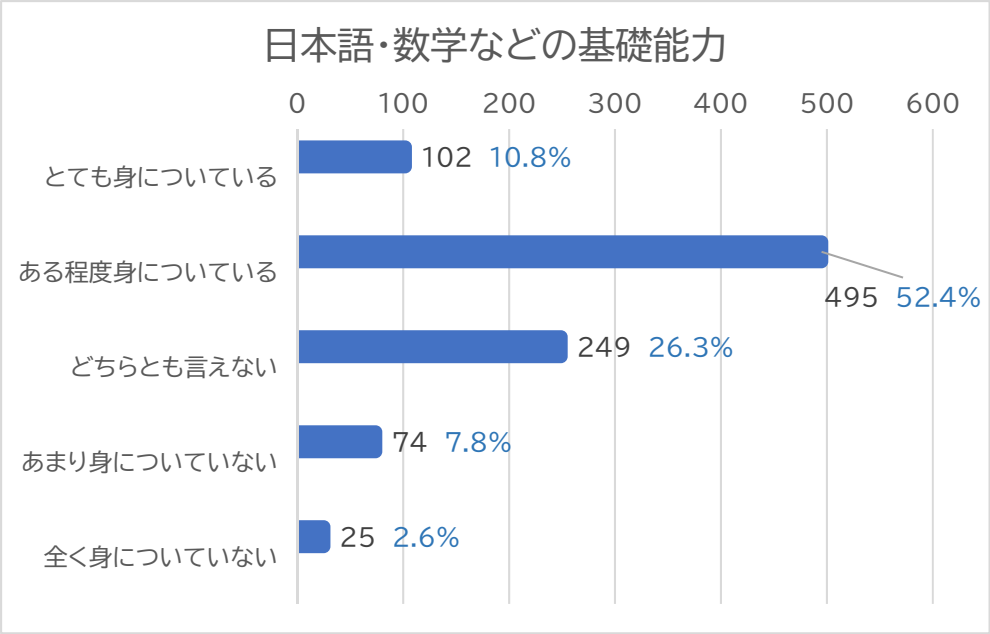
※英語を読む、聞く、書く、会話する



【コメント】

「どちらとも言えない」「あまり・全く身についていない」とした学生が 68.2%と多い。DP の『国際感覚やモラルなど豊かな人間性』に向けて、外国語(特に英語)能力を向上させる授業内容を検討する必要がある。

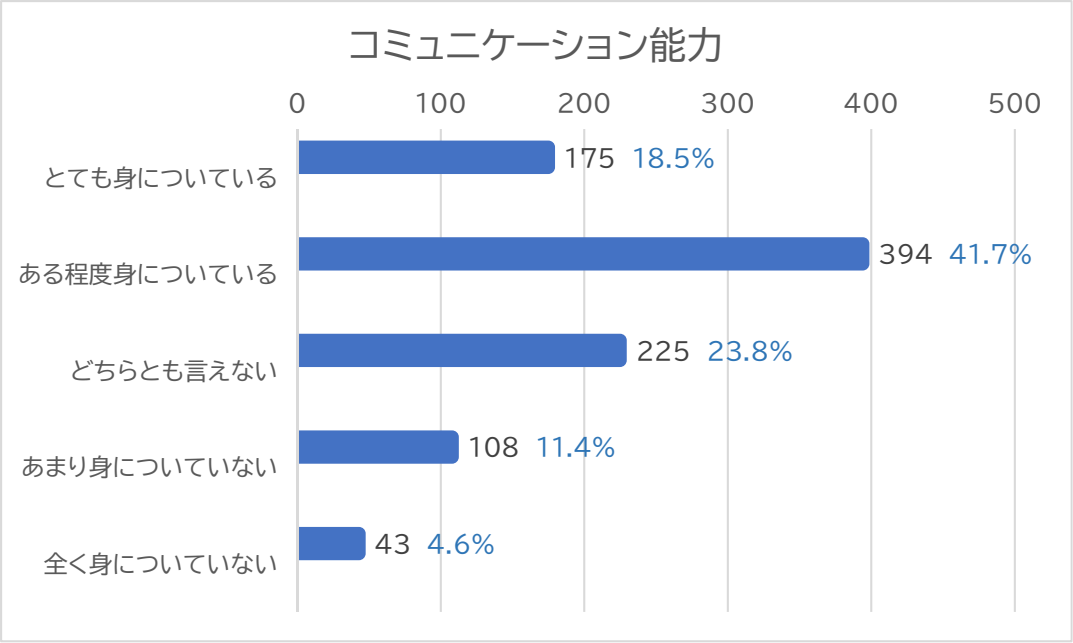
4. 日本語・数学などの基礎能力



【コメント】

63.2%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』、『知識のみではなく、生きるための知恵』が身に付いていると判断する。

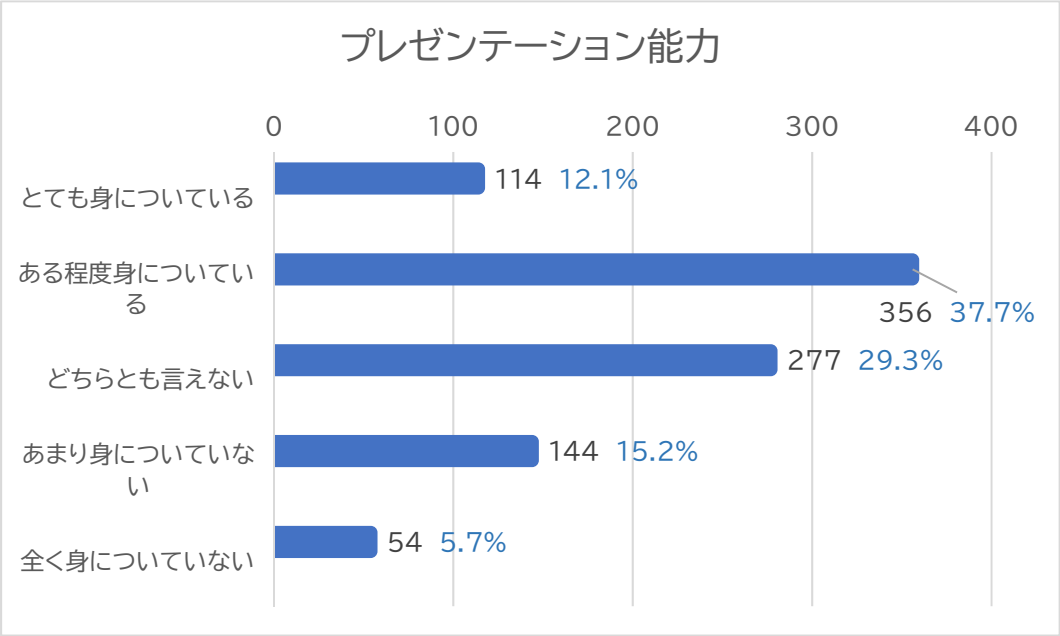
5. コミュニケーション能力



【コメント】

60.2%が「とても・ある程度身についてる」と回答しており、DP の『コミュニケーションとプレゼンテーション能力』が身に付いていると判断する。授業に関わらず学生間コミュニケーション、教職員とのコミュニケーションの機会・場所を増やすことが重要。

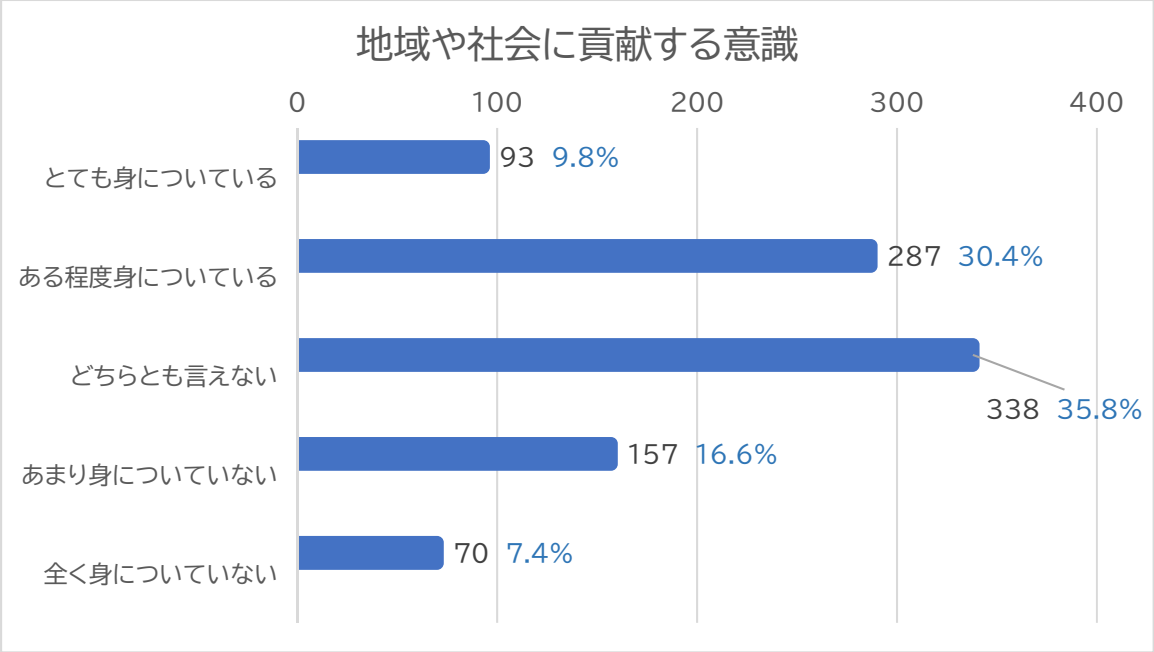
6. プレゼンテーション能力



【コメント】

「どちらとも言えない」「あまり・全く身についていない」とした学生が 50.2%と半数を超えており、DP の『コミュニケーションとプレゼンテーション能力』に向けて、授業にプレゼンテーション実践および適時フィードバックする等の機会を多くあたえることが必要である。

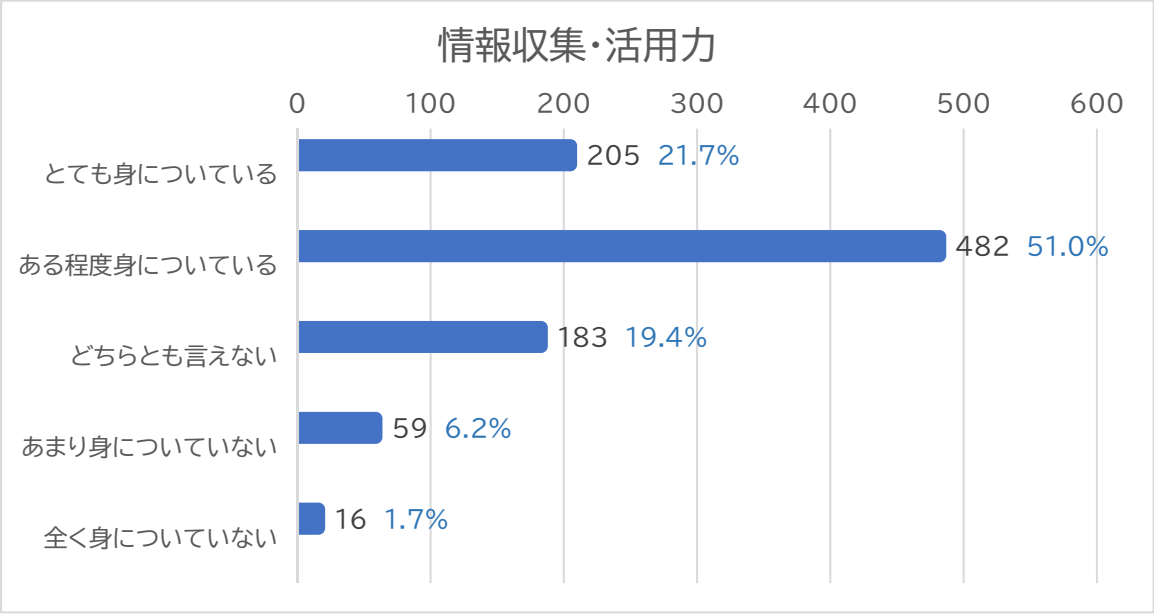
7. 地域や社会に貢献する意識



【コメント】

「どちらとも言えない」「あまり・全く身についていない」とした学生が 59.8%と半数を超えているため、DP の『知識のみではなく、生きるための知恵』に向けて、更なる世界・社会情勢の知識習得と地域の課題・解決・応用の実地体験を通した意識作りが必要と考える。

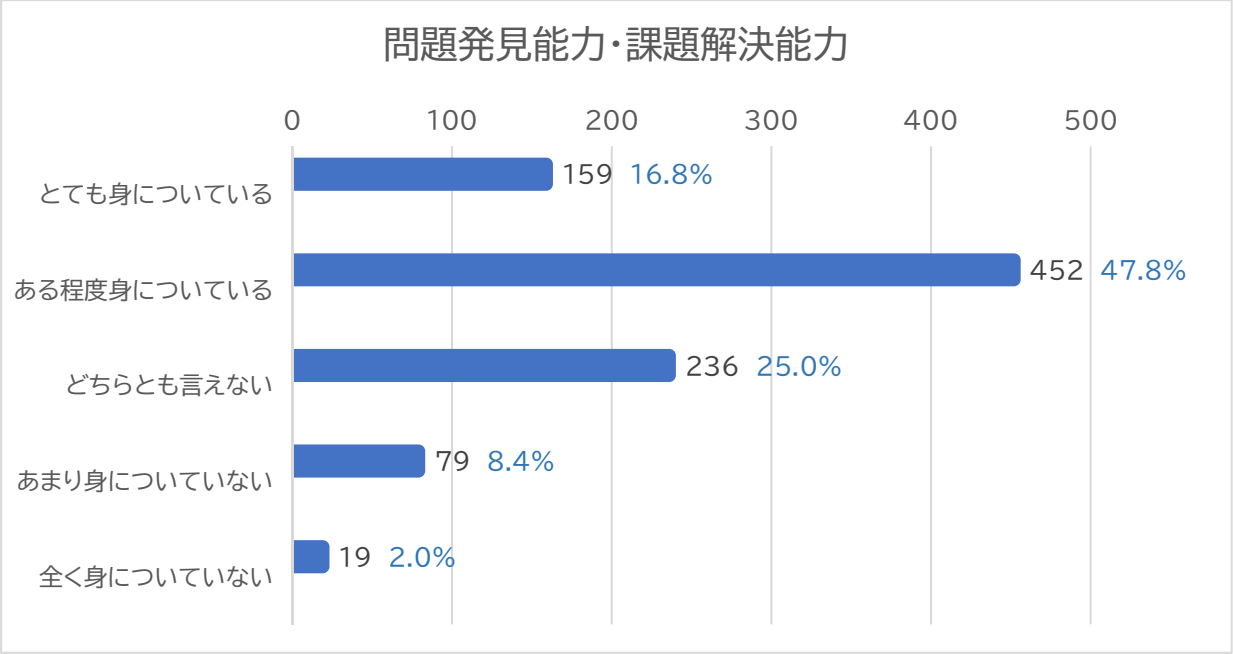
8. 情報収集・活用力



【コメント】

72.7%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』は身に付けていると判断する。

9. 問題発見能力・課題解決能力

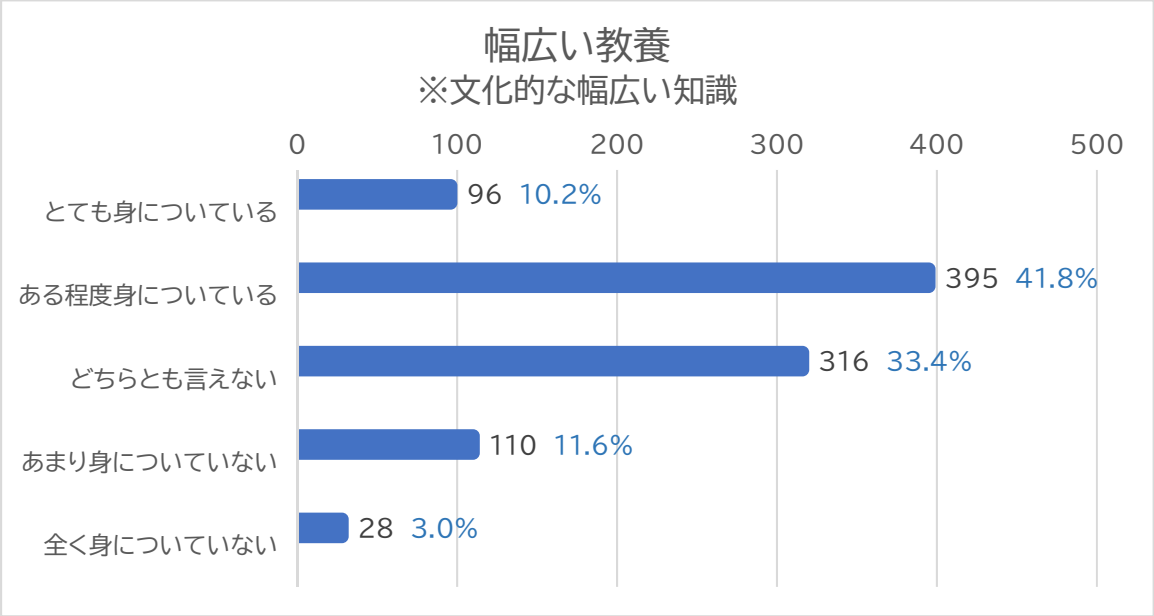


【コメント】

64.6%が「ある程度・とても身についている」と半数以上が回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』を身に付けていると判断する。

10. 幅広い教養

※文化的な幅広い知識

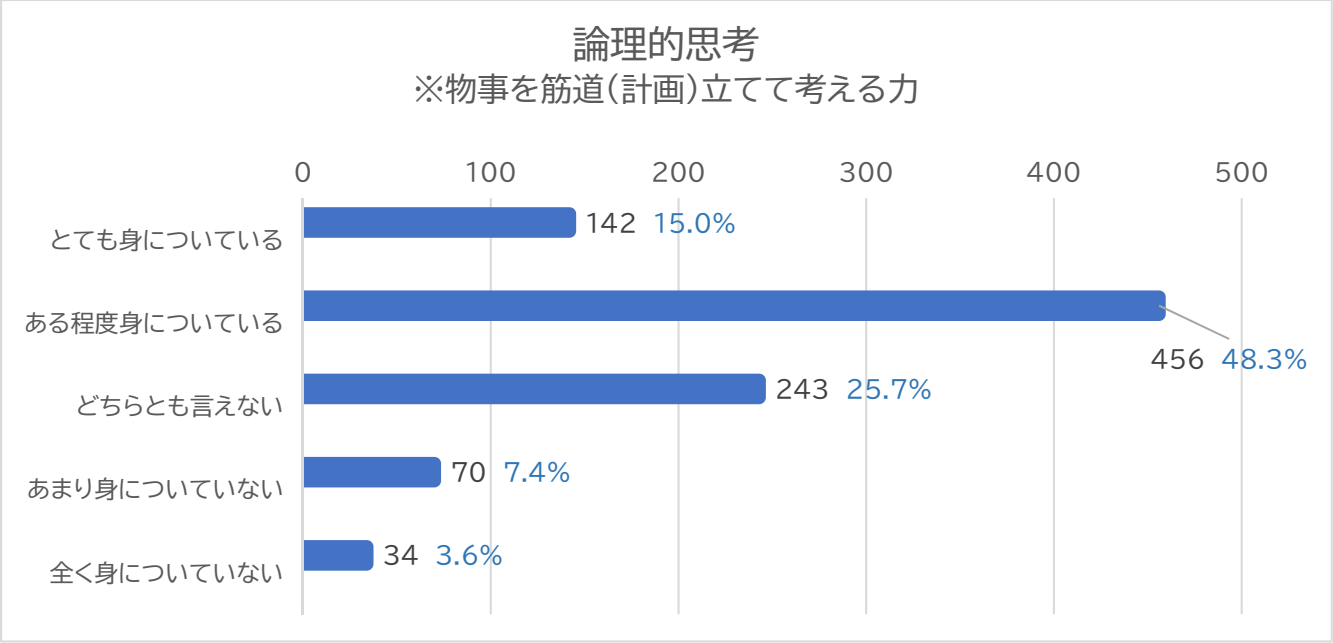


【コメント】

52.0%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『知識のみではなく、生きるための知恵』を身に付けていると判断する。

11. 論理的思考

※物事を筋道(計画)立てて考える力



【コメント】

63.3%が「ある程度・とても身についている」と回答しており、DP の『自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力』、『知識のみではなく、生きるための知恵』を身に付けていると判断する。

3. アンケートからみる3つのポリシーを踏まえた適切性

学修成果アンケートのうち、ディプロマ・ポリシー(DP)記載の能力が身につけたレベル(5段階)に関するアンケート(11 問)について分析した結果を示す。分析においては、アンケート回答(身についたレベル)に応じて1～5点を付与し、各 DP のスコアを関連する問の平均点の加重平均により求めた(図 1)。

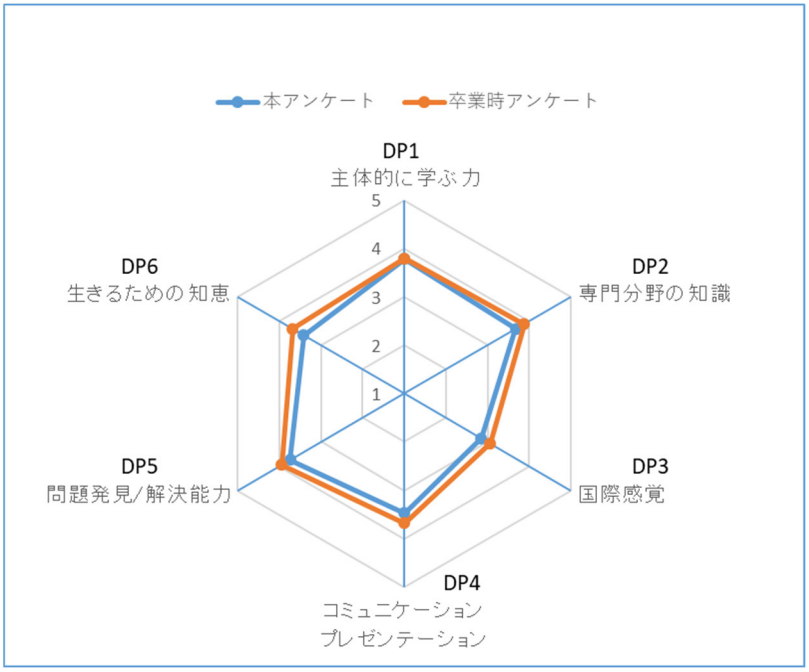


図1. ディプロマ・ポリシー(DP)とアンケート

DP3(国際感覚)のスコアは 2.85 と低く、1つのレベルで表現すれば「どちらとも言えない」と学生が感じ、他の DP については 3.4 以上であることから、「ある程度以上身についている」と感じる学生が多いことがわかった。

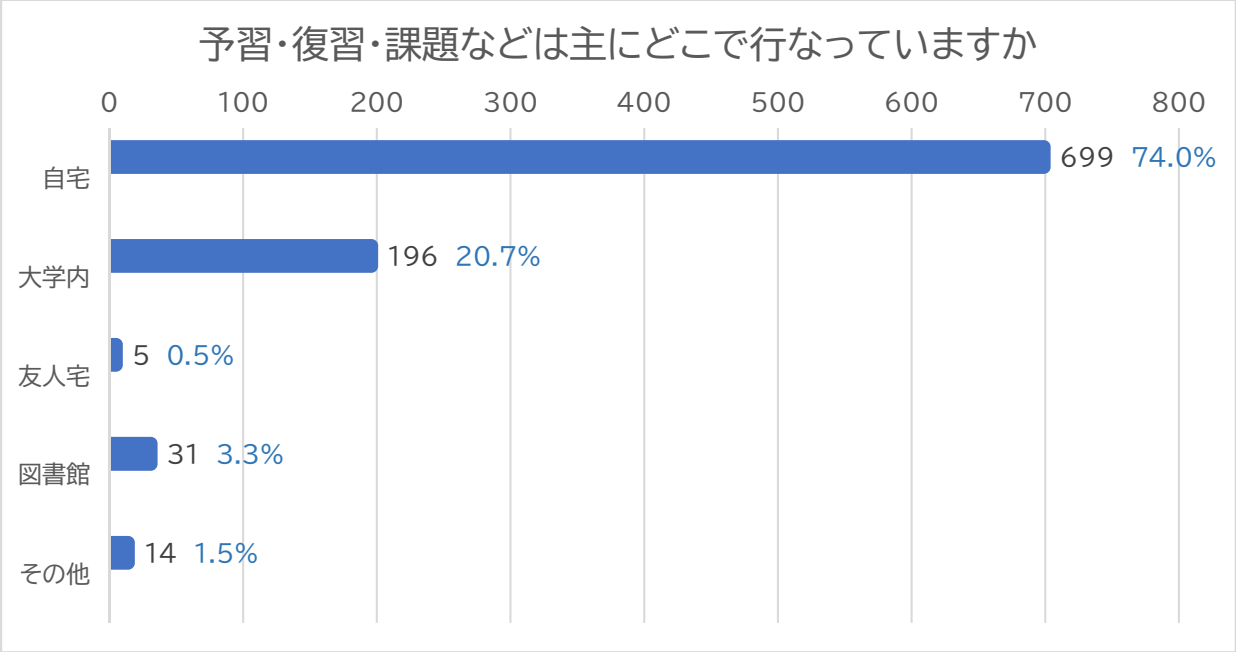
このことからディプロマに関する能力を身につけるためのカリキュラム・ポリシーは DP3 に関するものを除いて適切であると考える。また、アドミッション・ポリシーについても同様に DP3 を達成すること以外については問題ないといえる。

参考として、2021 年度卒業時のアンケート結果(10 問は今回と同じであり、レベルに付与する点の平均を 3 にする補正を行った)のスコアも上図に載せている。傾向がほぼ同じであることから、DP によって関連する能力の身につけ易さが異なり、その傾向は1年次から卒業時に至るまであまり変化しないと考えられる。

この結果を受け、DP3 に関わる英語教育について見直しを行い、学生にとって能力が身についたと感じられるよう改善を図ることを提言する。

今回のアンケートでは「日本語・数学などの基礎能力」について問う質問を含めおり、その回答の平均点が 3.61 と高かったことからも、英語教育に何らかの問題があると考えられる。各学生に合った教材あるいは課題を用いるなどの工夫が必要である。

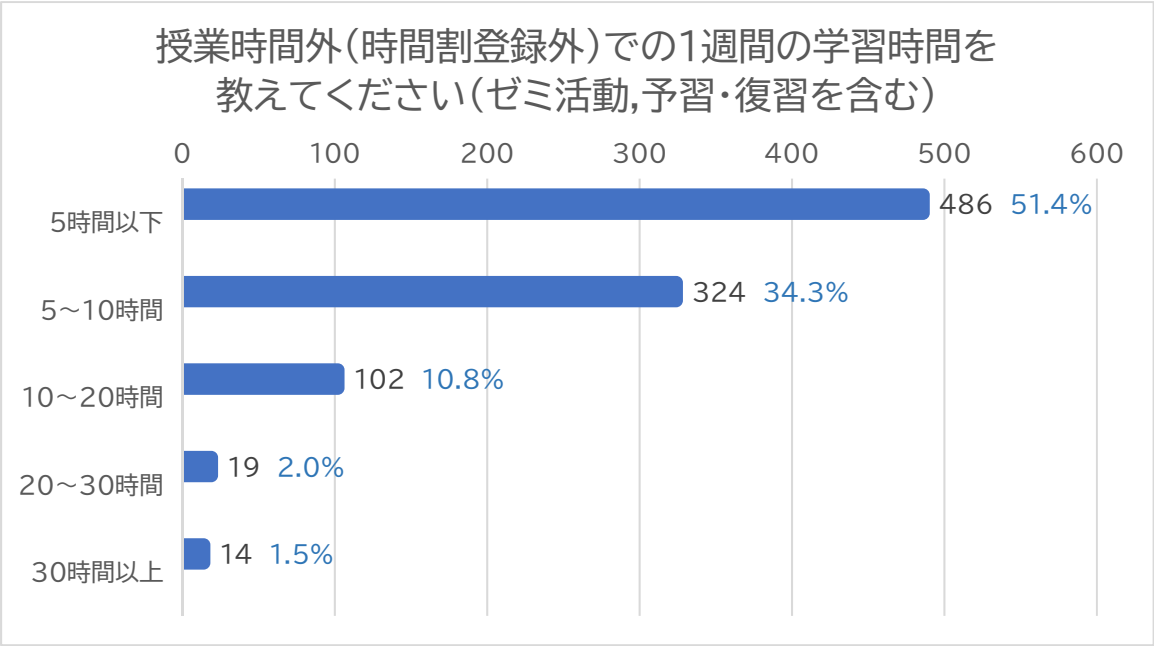
12. 予習・復習・課題などは主にどこで行なっていますか



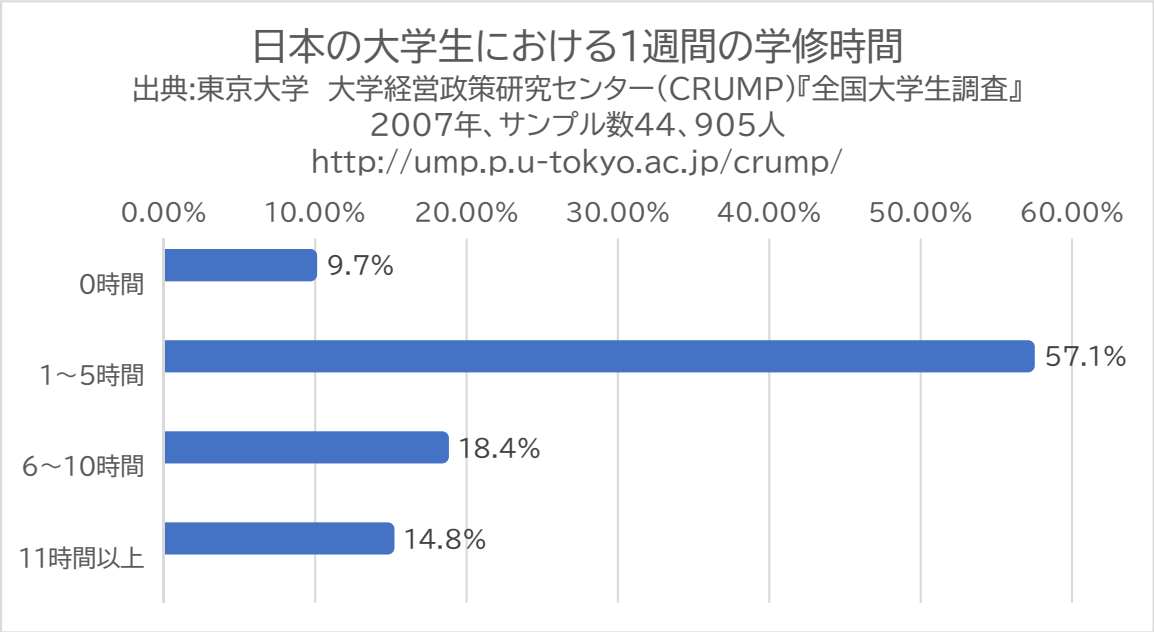
【コメント】

74.0%と多くの学生が自宅で学修していることが分かる。次に大学内(20.7%)と続くことから学内の学修環境を整えることで学修時間も変わると考える。

13. 授業時間外(時間割登録外)での1週間の学習時間を教えてください(ゼミ活動,予習・復習を含む)



(参考資料)日本全体の大学生の 1 週間の学修時間



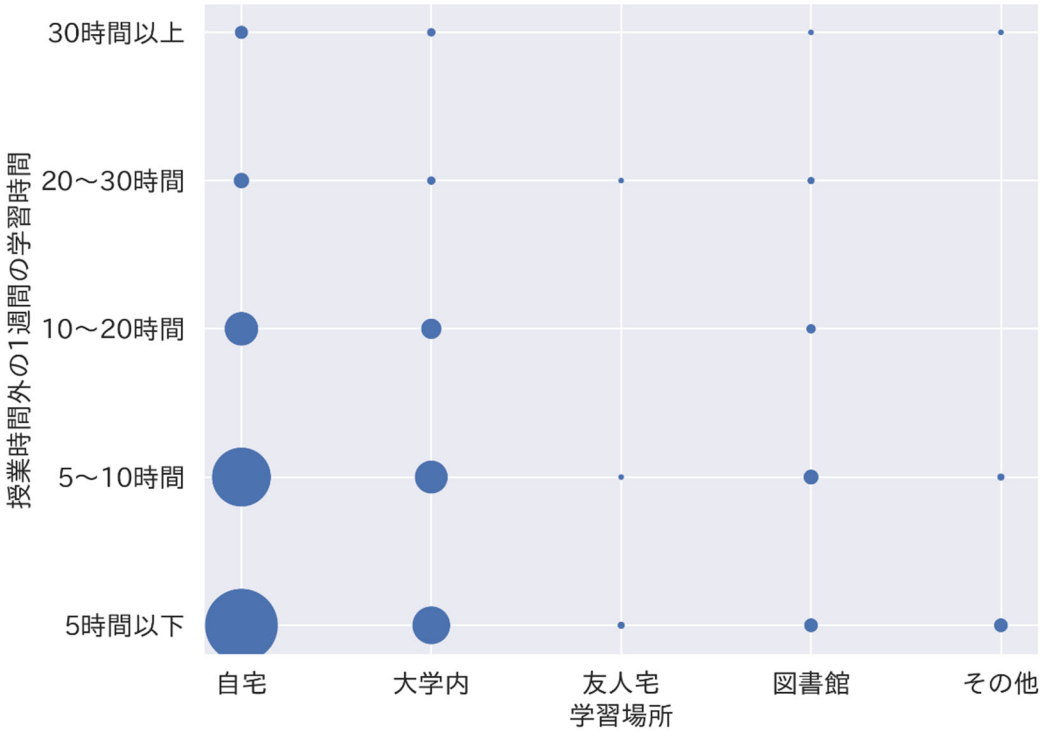
【コメント】

学修時間は日本全体の大学生と比べても平均的であるといえる。

※IR 分析(①)を参照

◆IR分析(①)

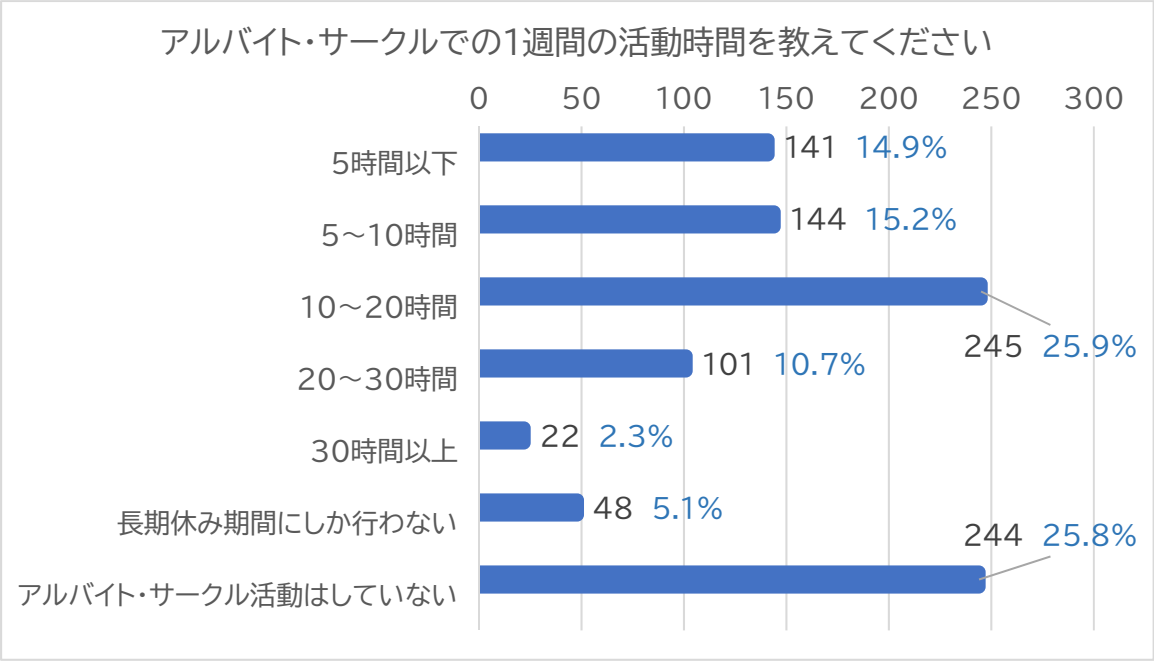
学習場所と授業時間外の学習時間の分布:点の大きさを、該当する人数に比例して図示した。(図①)



図①. 学習場所と学習時間の分布

自宅での学習時間が大勢を占めており、学習時間が長くなるにつれて、人数は減少する。それ以外の場所(大学や図書館)においても、傾向は同じである。

14. アルバイト・サークルでの1週間の活動時間を教えてください

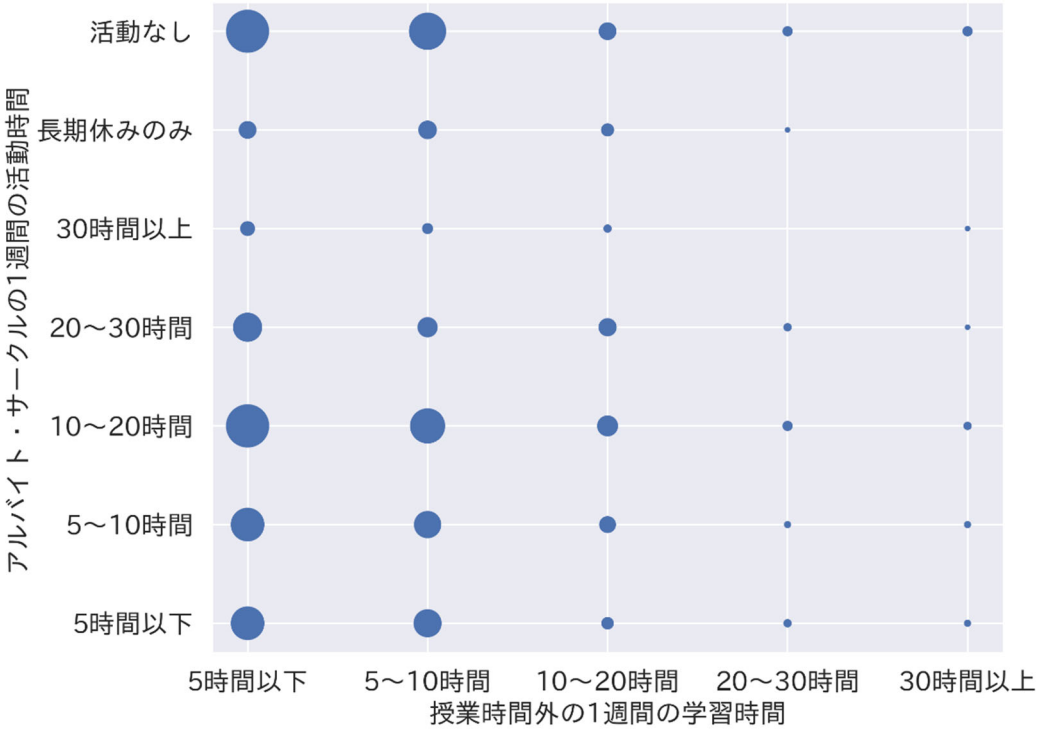


【コメント】

※IR 分析(②)を参照

◆IR分析(②)

学習時間とアルバイト・サークルの活動時間の分布：点の大きさを、該当する人数に比例して図示した。(図②)

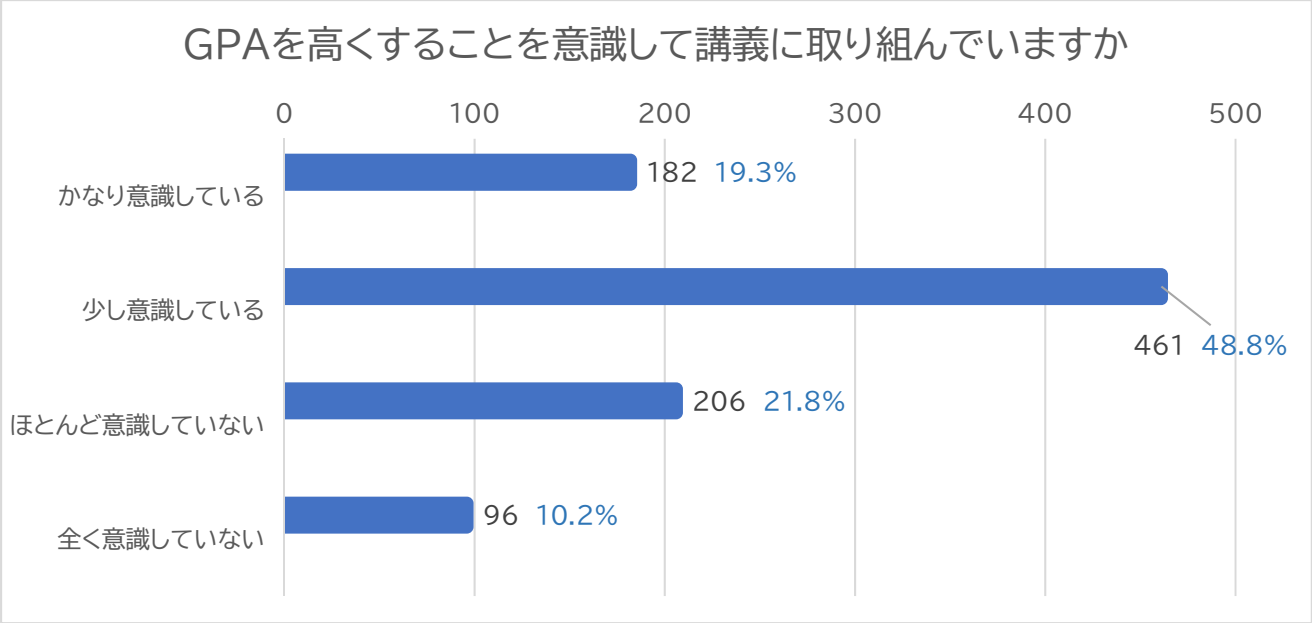


図②. 学習時間とアルバイト・サークルの活動時間の分布

アルバイト・サークルの活動時間に関して「活動なし」を除く回答者の学習時間は、アルバイト・サークルの活動時間より短い傾向がある。生活の軸がアルバイト・サークル活動に寄っていることが想像される。有意義な学生生活を送れるように、金銭的に困窮している学生の把握と支援、効率的な時間の使い方のレクチャーなどを実施する必要がある。

「活動なし」の学生について、時間的余裕はあると思われるが、学習 10 時間以下が大勢を占めている。学習時間の増加や充実した学生生活を促すため、学生の興味を喚起する講義や大学イベントを提供する。

15. GPA を高くすることを意識して講義に取り組んでいますか

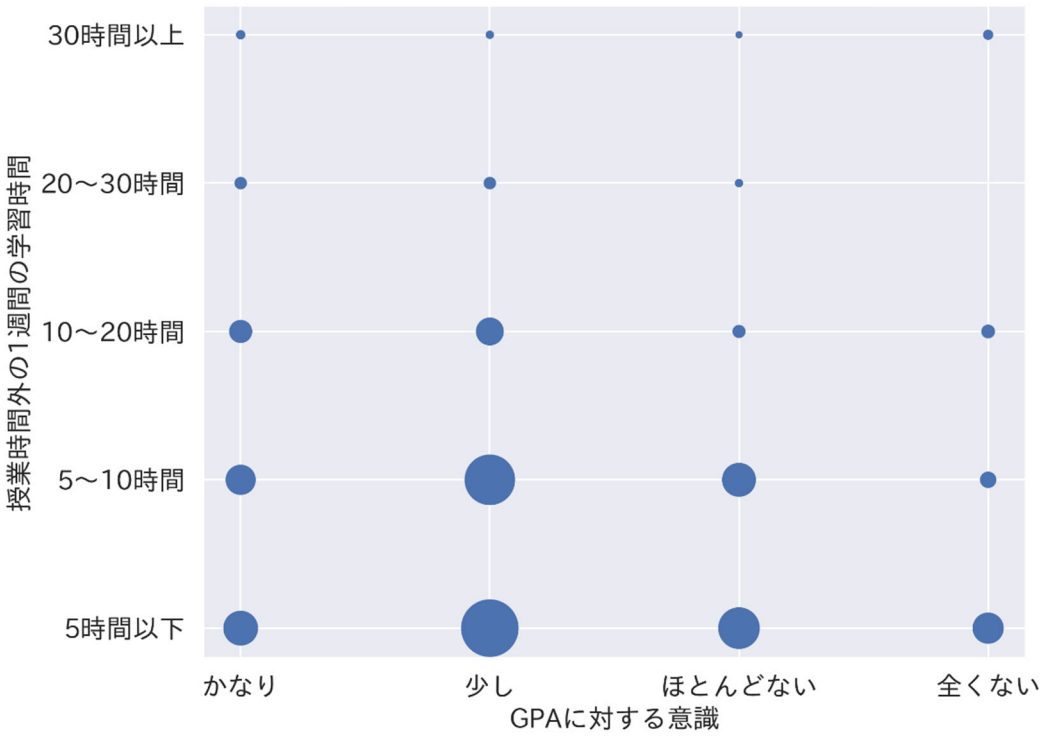


【コメント】

GPA を「少し・かなり意識している」と回答した学生は 68.1%となり、学生のモチベーションなどの観点から良い傾向と考える。

◆IR分析(③)

GPA に対する意識と学習時間の分布:点の大きさを、該当する人数に比例して図示した。(図③)

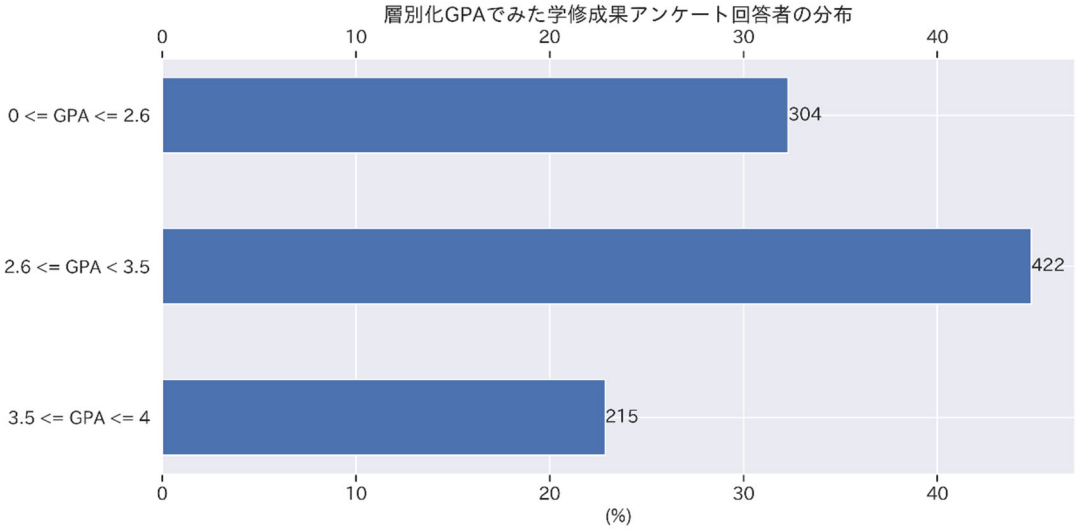


図③. GPA に対する意識と学習時価の分布

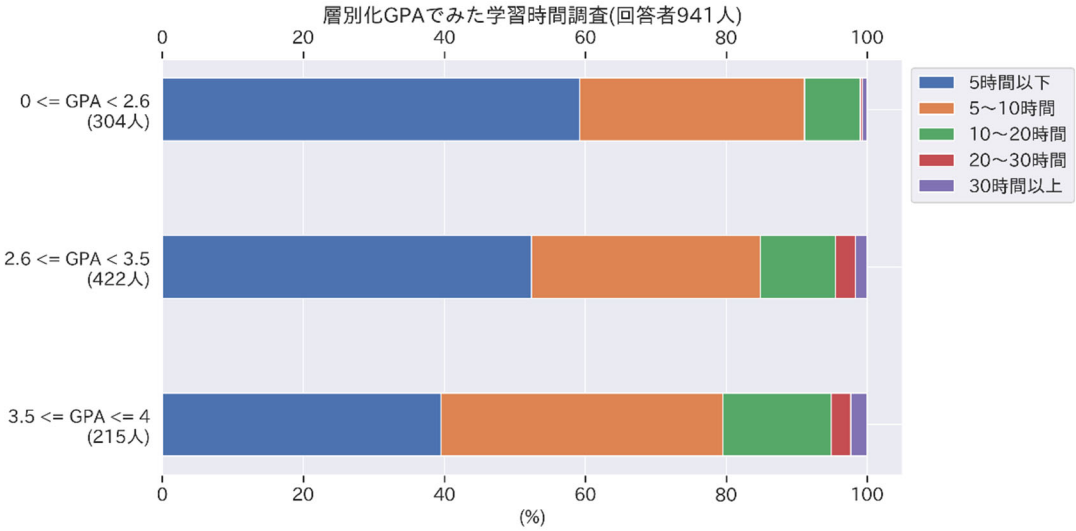
GPA に対する意識に依らず、学習時間 5 時間以下が大勢を占める。ゼミ配属や就職活動を通して、学生にとっての GPA の意義を高める必要がある。それにより、学生の学習時間の増加を期待できる。

◆IR分析(④)

(1)層別化 GPA でみた回答者数の分析(参考):GPA の層別化は、履修単位数の上限値(履修ガイド)と同じとした。

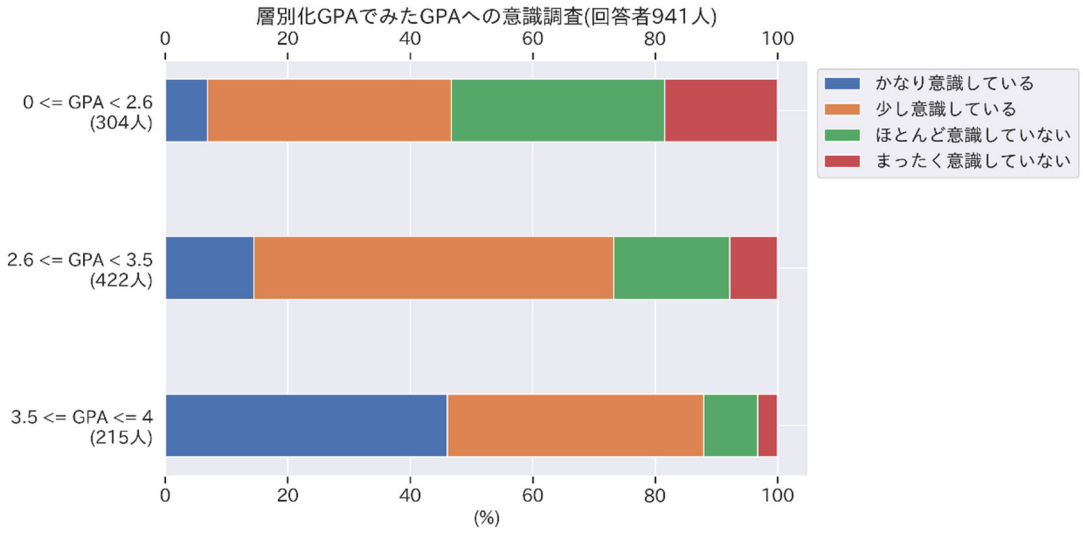


(2)層別化 GPA でみた学習時間に関する分析



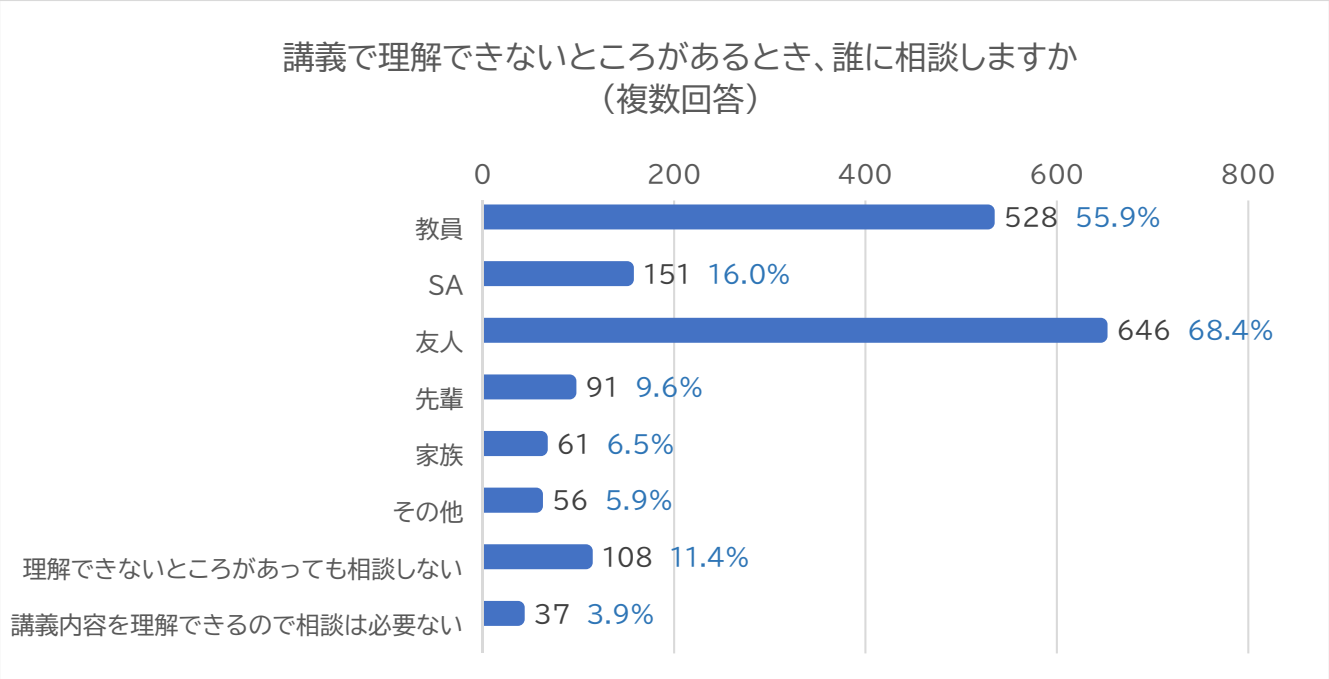
GPA が高くなるにつれて、学習時間が長くなる傾向がある。GPA が低い学生の学力向上にためには、学習時間の確保が重要と考えられる。そのために、目標 GPA に対する学習時間の目安を学生に提示し、指導に活用する。

（3）層別 GPA でみた GPA への意識分析



実際の GPA が低い学生ほど、GPA に対する意識が弱いことがわかる。GPA に反映される学力向上のために、学生への GPA 周知と意識づけの指導を行う。

16. 講義で理解できないところがあるとき、誰に相談しますか（複数回答）

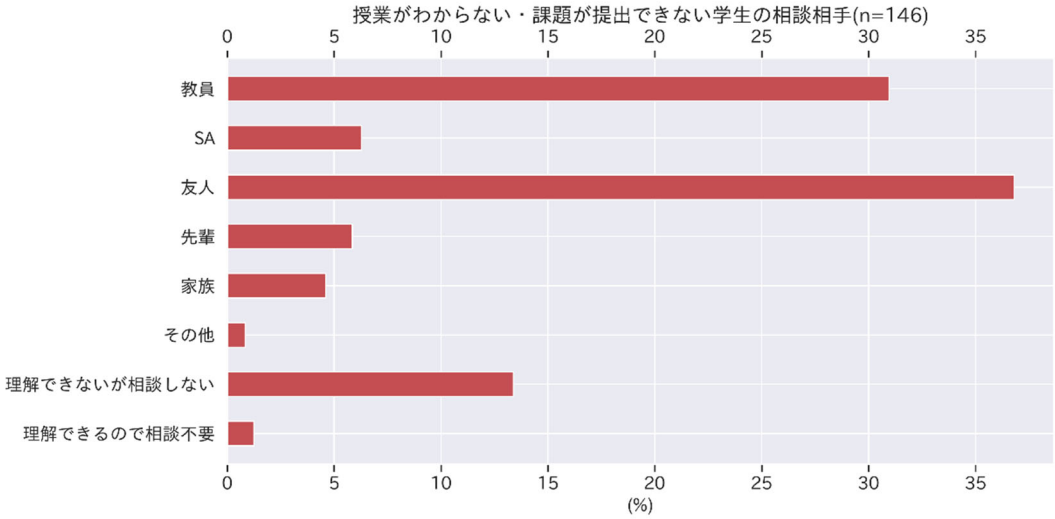


【コメント】

友人に相談する学生が最も多く、次いで教員へ相談する学生が多い。一方で SA やピアサポートルームなど、大学準備している学修サポートがあまり活用されていないように見受けられる。

◆IR分析(⑤)

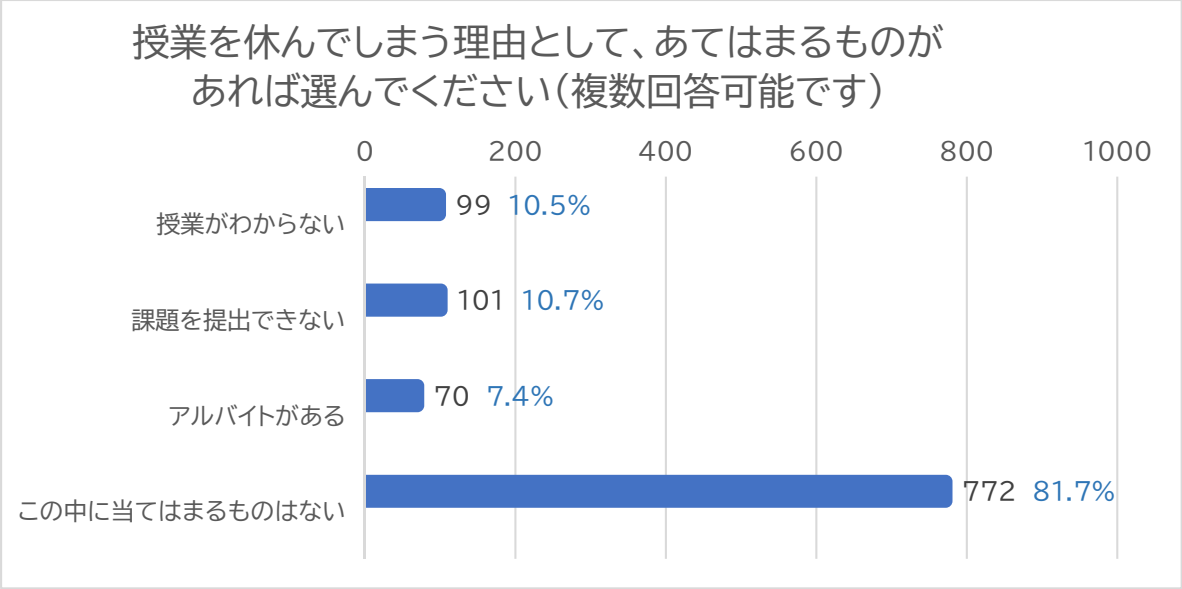
授業がわからない・課題が提出できない学生の相談相手に関する分析



回答のあった全学生と、「授業がわからない・課題が提出できない」と回答した学生との間に、相談相手の傾向に大きな違いはない。ただし、「理解できないが相談しない」の割合が比較的高い。

また、相談していても問題解決につながっておらず、学修意欲の低下を引き起こしている可能性がある。学習支援センターや学生チューターのより一層の周知や充実、教員が質問しやすい雰囲気を意識することが必要である。

17. 授業を休んでしまう理由として、あてはまるものがあれば選んでください（複数回答可能です）

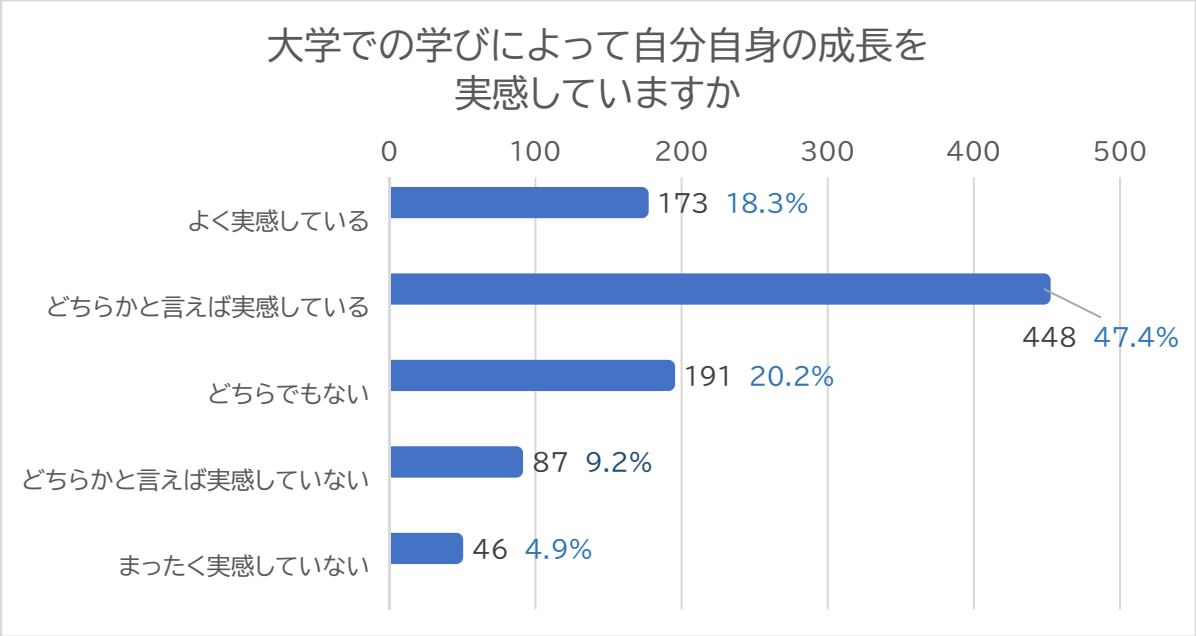


【コメント】

「授業がわからない」、「課題を提出できない」と回答した者は 21.2%となった。

学生が相談しやすい環境を作ることが必要である。

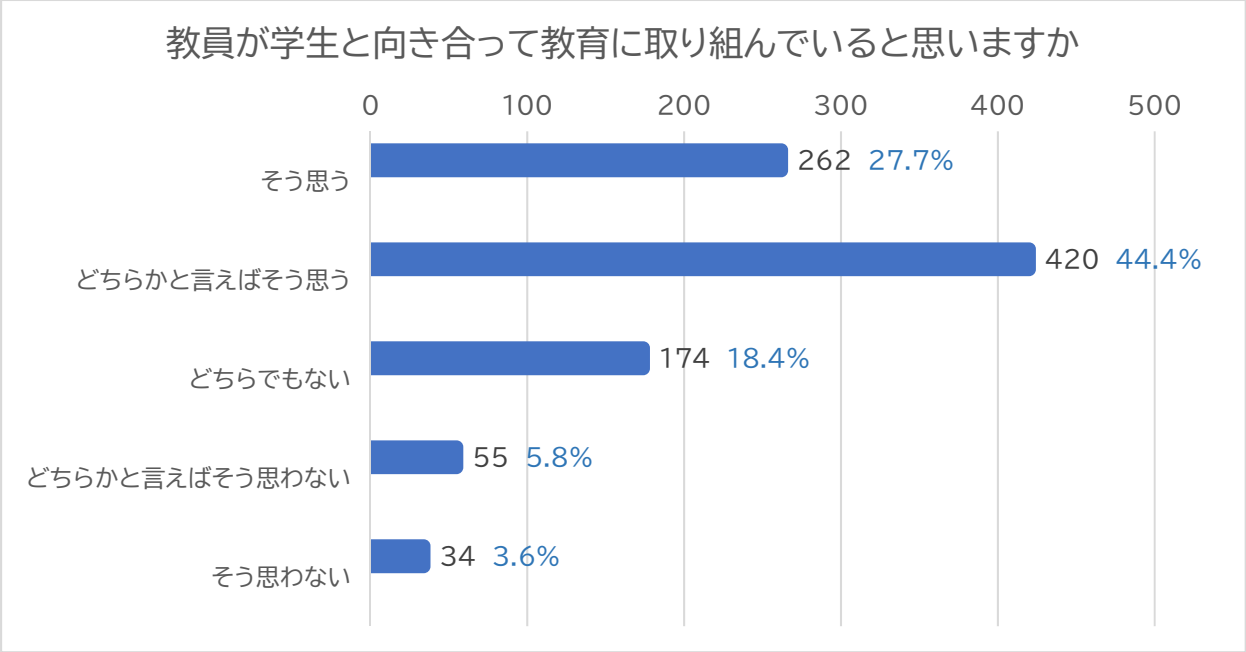
18. 大学での学びによって自分自身の成長を実感していますか



【コメント】

「どちらでもない」「どちらかと言えば・まったく実感していない」と回答した者が 34.3%となっており、学生の成長を促す学修環境の整備および自身の成長を実感する機会が必要である。

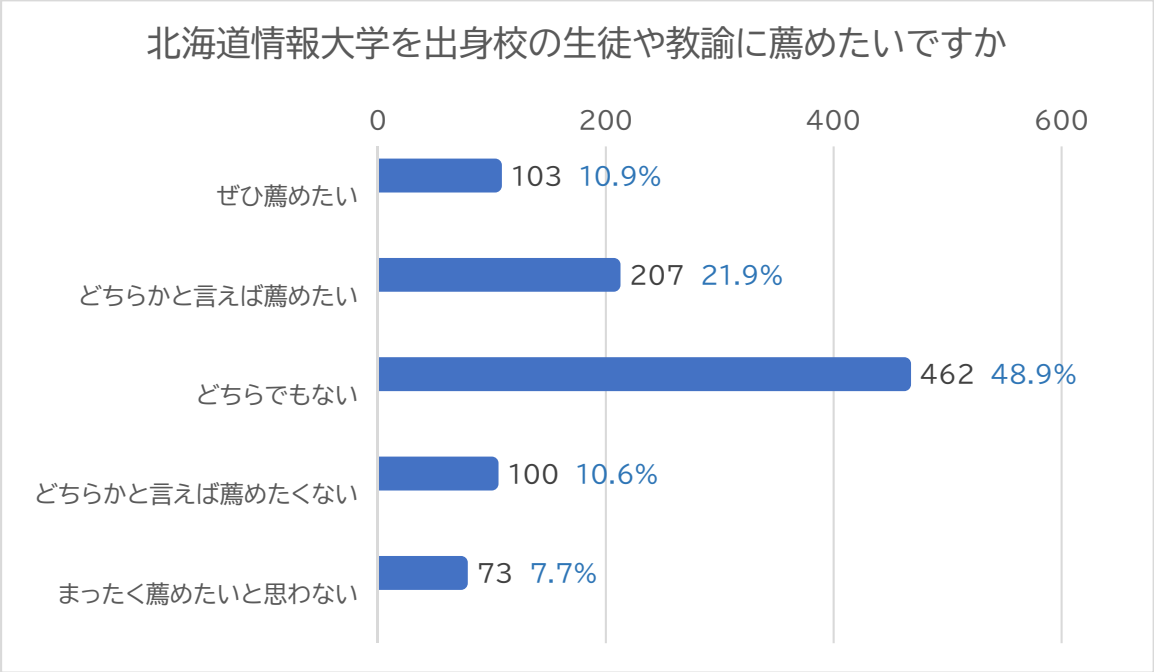
19. 教員が学生と向き合って教育に取り組んでいると思いますか



【コメント】

「とちらでもない」「どちらかと言えば・そう思わない」とした回答が 27.7%となった。教員は学生と向き合うためのより一層の努力が必要である。

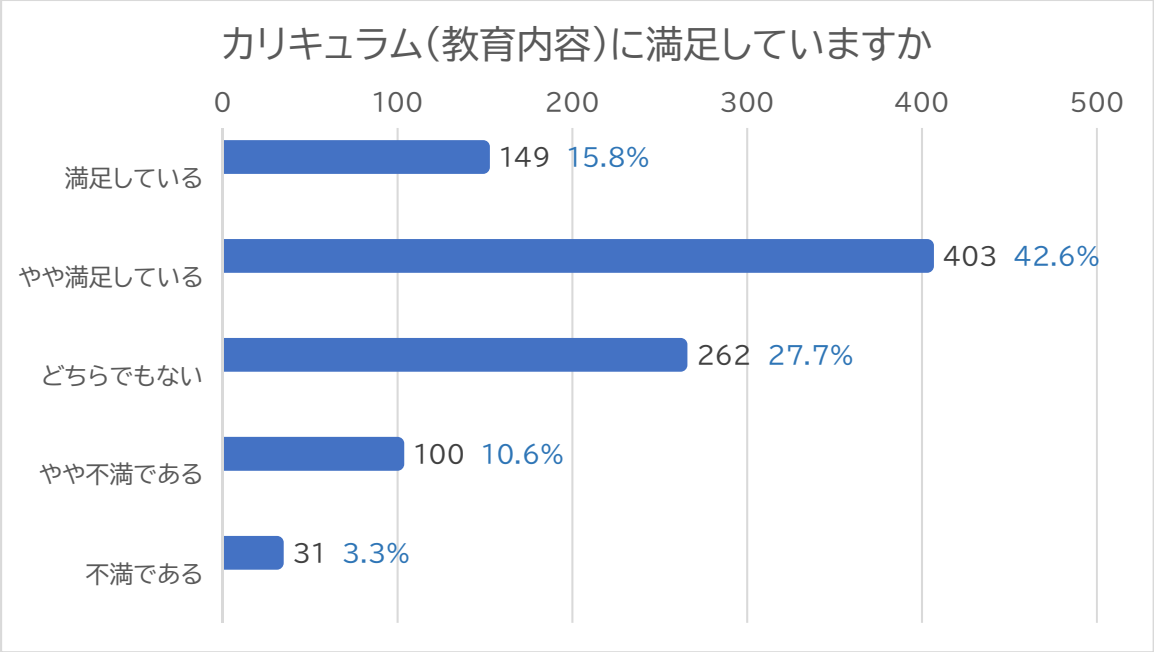
20. 北海道情報大学を出身校の生徒や教諭に薦めたいですか



【コメント】

「どちらでもない」「どちらかと言えば・まったく薦めたいと思わない」とした学生が 67.2%と多い。学生が本学を進めたいと思うような学修環境や学内の設備を整える必要がある。

21. カリキュラム(教育内容)に満足していますか

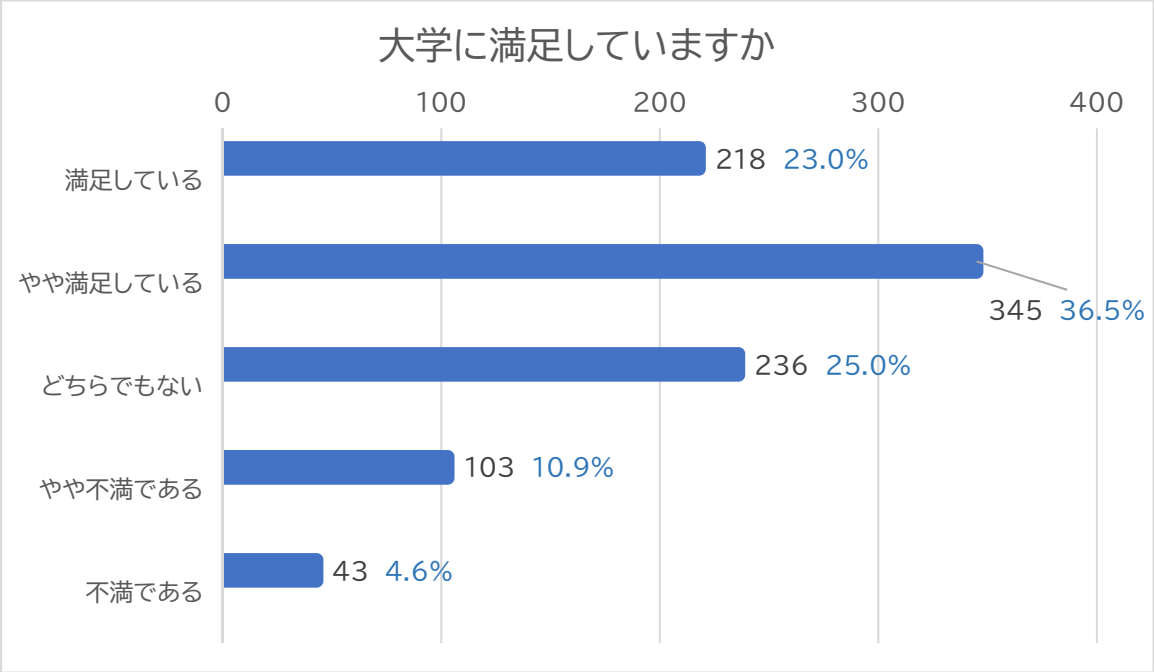


【コメント】

「満足・やや満足している」が 58.4%である。

カリキュラム内容について学生への押し付けになっていないかの検証が必要と考える。

22. 大学に満足していますか



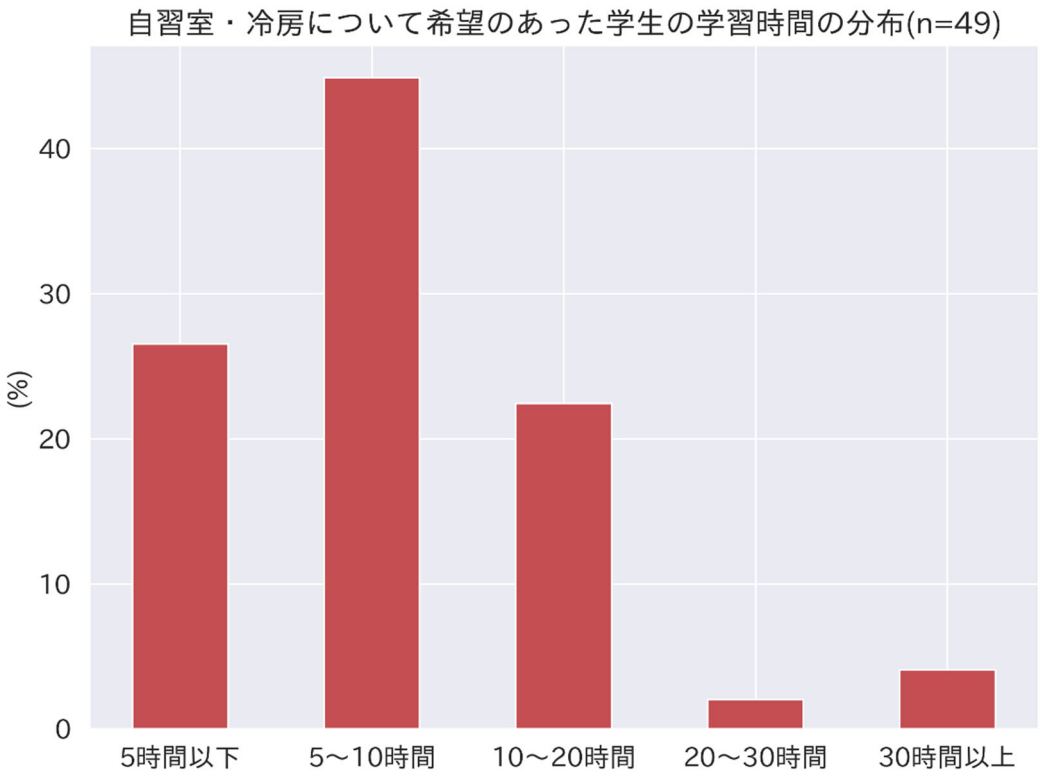
【コメント】

59.5%の学生が満足していると答えている一方、不満がある学生は合計で 15.5%いる。

授業などの学修環境、学生生活のいずれも学生にとって満足できる環境作りに努める必要がある。

◆IR分析(⑥)

自由回答欄にて、実習室や冷房について希望のあった学生の学習時間の分布を示した。



学習時間 10 時間以下の回答が 71%を占めている。自習する学生が増えれば、友人同士での助け合い、友人に感化されて自習する学生の増加、友人関係の構築に貢献すると考えられる。学習時間の増加を促すために、自習室の拡充や教室への冷房設置が必要である。

4. 提言まとめ

（1）　教職員

① 外国語教育の見直しを行い、学生にとって能力が身についたと感じられるように必修・選択等の授業形態と授業内容の抜本的な改善を図る
② ゼミ配属や就職活動を通して学生にとってのGPAの意義を高め、学習時間の増加につなげる
③ GPAと学習時間の相関を学生に提示する
④ GPAが高くなるとともに学習時間が長くなる傾向がある。GPAが低い学生はGPAに対する意識が弱い。ゼミや就職活動を通してGPAの意義を高め、学習時間の増加に繋げる
⑤ 教員は学生が質問しやすい雰囲気を意識することが必要である
⑥ 学生の興味と関心を喚起する幅広い教養の必要性と専門科目との繋がりを意識した授業を行う
⑦ 学生とともに教職員は大学でのイベントを実施し有意義な学生生活に繋げる
⑧ 学生の自習による友人との相談や助け合いに繋がる友人関係の構築を促すように教職員は配慮する
⑨ 学習支援センターや学生チューターの活用を学生に周知する。質問しやすい雰囲気を意識した授業を教員は検討する
⑩ 学生の自習による友人との相談や助け合いに繋がる友人関係の構築を促すように教職員は配慮する
⑪ 金銭的に困窮している学生の把握と効率的な支援を行うとともに、生活時間の改善について職員は指導する

（2）　その他（設備など）

① 自習する学生が増えれば、友人同士での助け合い、友人に感化されて自習する学生の増加、友人関係の構築に貢献できる
② 学習時間の増加を目指して、自習室の拡充や教室への冷房設置を行う

【参考】3つのポリシー（DP／AP／CP）

DP（概要）

①. 生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力
②. IT 社会に役立つ高度な情報技術と専門知識
③. 国際感覚やモラルなど豊かな人間性
④. コミュニケーションとプレゼンテーション能力
⑤. 自ら問題を見つけ出し、情報技術を活用し自身で工夫できる問題発見・解決能力
⑥. 知識のみではなく、生きるための知恵

AP（概要）

高等教育等での学びや諸活動、資格・検定などで得た基礎学力、基礎知識、語学力、読解力、論理的思考力、主体的に学ぶ力
DPで示した6つの知識・能力を身に付けられる学生

CP（概要）

「情報化社会の新しい大学と学問の創造」の建学理念に基づき、全学部学科にコースあるいは専攻を設け、DPにコース（専攻）ごとの「育成すべき人材像とコンピテンシー」を設定し、「コンピテンシーに基づく教育課程編成」を行います。すなわち、育成すべき人材像に必要なコンピテンシーを各科目と関連付けることで教育目標の達成に向けた履修科目を体系化し、教育課程を編成します。